

境界をこえるシンフォニー

音楽創作プロジェクト「世界の庄内音楽ワークショップ」を開催

日本センチュリー交響楽団では豊中市とともに豊中市庄内において「世界の庄内音楽ワークショップ」と題した音楽プロジェクトを開催します。しょうない REK、大阪音楽大学の協力のもと、豊中市内外から集まった参加者が当団コミュニティプログラムディレクター野村誠と楽団員、大阪音楽大学の教員によるワークショップにてオリジナルの音楽を制作し、1月23日に開催する「世界のしょうない音楽祭」にて作品を発表します。音楽の経験も楽器の和洋も問わない「バリアフリーオーケストラ」が「境界をこえるシンフォニー」を奏でます。

日本センチュリー交響楽団と豊中市は2012年度より「音楽あふれるまちの推進に関する協定」を結び「豊中まちなかクラシック」と題して、市内の寺院や教会など身近で魅力ある場所でコンサートを開催し、多くの方に音楽を届けて参りました。さらに2014年からは音楽の経験に関係なく、だれでも参加できる音楽創作プロジェクトを開催。「演奏者-聴衆」「講師-生徒」「西洋-東洋」のような垣根を越えて参加者全員が作曲家になりオーケストラのメンバーになります。庄内は未来のオーケストラの姿を先取りする最先端のまちです！

邦楽とオーケストラ、そして世界の音楽が庄内で出会う！

昨年（2014年）度のワークショップは大阪大学 CSCD の西川勝特任教授にナビゲートいただき「哲学カフェ」とオーケストラのコラボレーションを楽しみました。2年目となる今回は大阪音楽大学、特にコーディネーターの井口淳子教授、邦楽専攻の皆さんとともに、小学生から70歳代まで世代をこえた約40名の参加者で新しい音楽を創ります。和と洋の音楽が出会い、音楽家とそうでない人が出会い、老若男女が出会う。世界中にオーケストラは数あれど、こんなに自由なオーケストラはそうはない。でも本業のオーケストラの楽団員もちゃんと混じっているのが面白い。さらに作品を発表する世界のしょうない音楽祭には、フィンランド、ペルーの民族音楽、沖縄のエイサー、大衆歌謡お芝居ショー、更には釜ヶ崎芸術大学から「釜ヶ崎オ!ペラ ガムランチーム」までゲスト出演。その名前に負けない世界の音楽、ここ以外、世界のどこにも存在しない音楽を楽しんでください。

プロジェクト概要

■世界の庄内音楽ワークショップ

2015年12/3（木）、9（水）、17（木）

2016年1/7（木）、14（木）、17（日）

時間（水）（木）18:30～20:30

（日）13:30～15:30

会場：大阪音楽大学F号館434教室

主催：豊中市

共催：（公財）日本センチュリー交響楽団

協力：大阪音楽大学、しょうない REK

■発表

世界のしょうない音楽祭にて演奏

1/23（土）13:30開演

16:10終演（予定）

会場：サンパティオホール

（阪急宝塚線・庄内駅西口2分）

入場無料

主催：しょうない REK、豊中市

共催：（公財）日本センチュリー交響楽団

協力：大阪音楽大学

この件に関するお問い合わせ先

公益財団法人日本センチュリー交響楽団 担当 柿塚（カキツカ）

電話 06-6868-3030 FAX 06-6866-9020 Email kakitsukat@century-orchestra.jp

日本センチュリー交響楽団 （にほんせんちゅりーこうきょうがくだん）

1989年に活動を開始し、創立25周年を迎えた2014年には首席指揮者に飯森範親を、首席客演指揮者にアラン・ブリバエフを迎え新たなスタートを切った。定期演奏会、さまざまな地域での特別演奏会、青少年のためのオーケストラ体感コンサート、特別支援学校コンサート、豊中市との協定に基づく演奏会活動や、地域コミュニティとのプロジェクト、ユースオーケストラの運営など教育プログラムにも力を入れている。2015年シーズンはテーマを「挑戦」と定め、ハイドンの交響曲を全曲演奏・録音する「ハイドンマラソン」の始動、ピアニストの小山実稚恵のアーティスト・イン・レジデンス就任など、精力的に活動を展開している。2014年4月に作曲・ピアニストの野村誠氏をディレクターに招き、地域コミュニティとのプログラムを開始。就業支援の必要な若者との音楽創作「The Work」、豊中市庄内での音楽創作活動は他の楽団に先駆けた新しい取り組みとして注目を集めている。



日本センチュリー交響楽団 ©s.yamamoto



野村 誠

プログラムディレクター 野村 誠 （のむら まこと）

1968年生まれ。京都大学理学部卒。作曲家として、オーケストラ、ガムラン、和楽器、ロックバンド、日用品、瓦など、様々な楽器のために作曲し、世界20カ国で作品を発表。また、お年寄りから、子どもまで、プロ/アマチュア問わず、幅広く共同作曲を実践。「日英共同の「ホエールトーン・オペラ」監修、「千住だじゃれ音楽祭」音楽監督など、国内外で数多くのコミュニティプロジェクトを成功させる。2006年度、NHK教育テレビで、子ども向け音楽番組「あいのて」を番組監修し、自身も赤のあいのてさんとしてレギュラー出演。第1回アサヒビール芸術賞など受賞多数。著書に「音楽の未来を作曲する」（晶文社）ほか多数。CDに「ノムラノピアノ」（とんつーレコード）ほか多数ある。これまでに、京都女子大、京都造形芸大、大阪音大、東京藝大、慶応大、早稲田大、ハダスフィールド大（イギリス）、インドネシア国立芸大、シラパコーン大（タイ）などで講師を務める。2014年4月、日本センチュリー交響楽団コミュニティプログラムディレクターに就任。

コーディネーター 井口 淳子 （いぐち じゅんこ）

大阪音楽大学音楽学部教授、文学博士。専攻は音楽学、民族音楽学。中国北方農村、上海、沖縄などをフィールドとしている。主な研究テーマは「中国の音楽・芸能研究」および「東アジアの近代洋楽受容」

しょうないREK （しょうないれつく）

R=Recycle(リサイクル)、E=Event(イベント)、K=瓦版を合合わせた造語です。豊中市の「市民公益活動推進条例」に基づき、市民と市が協働して2004年に立ち上げました。豊中市立庄内図書館を拠点に市立図書館のリサイクル本の販売や庄内地域での様々な活動を通じて地域情報の収集・発信を継続的に行い、庄内地域が今まで以上に住みやすい活気ある楽しく安全な町になるように地域のみなさまとともに活動しています。